

〈原著論文〉

「教職入門」と「生徒・進路指導論」における 教職に対する学生の意識の検討

山 崎 晃 昭*

Consideration of Students' Attitudes toward the Teaching Profession in "Introduction to Teaching Profession" and "Studies of Student Guidance"

(YAMAZAKI Teruaki)

1. はじめに

この10年間、教員採用試験の倍率と受験者数は減少の傾向にある。その一方で、学校現場では様々な教育課題が山積するとともに、教員不足に困っているという状況がある。また、過酷な労働環境や精神的な病気で休職する教員の増加についても報道されている。このような中で、筆者も教職課程の授業を担当する者として、教員を志望する学生を増やしていくためにどのように授業を行っていけばよいか、日々試行錯誤しているところである。

中瀬（2015）は「教職概論」の授業理解と教職に対する意識の検討」の中で、教職課程の入門授業と位置付けられている「教職概論」の授業理解の状況や、授業が職業選択に資することができたかを検討している。そして、「教職概論」の授業により、教職に関する理解が深まり、教職への志望が強くなった一方、教員の役割や職務内容の理解が図られるほどに、教職に対する不安も大きくなってしまいうことに触れている。

筆者も中瀬と同じく教員養成大学・学部以外の一般大学で教職課程の授業を担当し、さらに中瀬と同様に教職課程の入門授業として位置づけられている「教職入門」を担当している。また、筆者は学生が「教職入門」を修得した後、第2学年から履修できる「生徒・進路指導論」も担当している。そこで、中瀬が「教職概論」のみで検討した教職に対する意識について、筆者の担当する「教職入門」と「生徒・進路指導論」の受講生を対象として調べることにした。これらの二つの授業における教職に対する受講生の意識を比較しながら検討することで、筆者

* 近畿大学教職教育部特任教授

〔キーワード〕 教職入門、生徒・進路指導論、教職志望度、
教職に対する不安、グループワーク

が担当する「教職入門」と「生徒・進路指導論」の受講生が、教職への志望を強くするとともに、教職への不安が少なくなるような授業の在り方について考えていきたい。

2. 調査の方法

(1) 対象と時期

筆者が担当した2023年度前期の「教職入門」および「生徒・進路指導論」を受講した学生を対象とした。

「教職入門」は、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」および「各教科の指導法」の入門科目となっていて、「教職入門」の単位を修得しなければ、「教職入門」以外の上記科目は履修できない。教職課程を履修する学生は、必ず(1年次前期が望ましい)「教職入門」を履修し、教師という職業の特質や、学校という場の特質、そして教育という仕事の大変さややりがいなどを学び、自分の適性や学修意欲を確かめることになる。「教職入門」の授業内容は核を同一としながらも、詳細は担当する教員に委ねられている。筆者の「教職入門」の授業のシラバスの概要を表1に示す。

表1 筆者の「教職入門」の授業のシラバスの概要

回	テーマ	主な内容
第1回	オリエンテーション	
第2回	学校とは何か	教育とは、学校とは、子ども・若者の教育
第3回	教師とは何か	教員の役割の変遷、求められる教師像
第4回	学校の組織と運営	教員の職務、学校経営、学校組織と校務分掌
第5回	教員の仕事について	教職の特性、他の職業との違い、ある教員の一日
第6回	教員の勤務と服務	教員の勤務、教員の服務、身分保障と分限・懲戒
第7回	教員の研修	教員研修の意義、教員研修の種類
第8回	教員になるには	教育職員免許状の取得、教員採用試験
第9回	これまでのまとめと「中間試験」	
第10回	学習指導と評価	学習指導、授業のあり方、評価の考え方
第11回	生徒指導のあり方	生徒指導の意義・内容、推進体制と生徒指導主事
第12回	学級経営について	学級経営の意義、学級担任、学級集団づくり
第13回	いじめに取り組む	定義、原因と背景、具体的な取組み
第14回	教育の将来的課題について	教育の最新事情、今後の方向性
第15回	まとめ	講義全体の要点整理、振り返り

「生徒・進路指導論」は「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に属する科目で、2年次前期から履修できる。教職課程を学ぶ多くの学生は1

年次前期に「教職入門」を修得し、1年次後期にいくつかの教職課程の科目を履修して、2年次前期に「生徒・進路指導論」を履修する。筆者の「生徒・進路指導論」の授業のシラバスの概要を表2に示す。

表2 筆者の「生徒・進路指導論」の授業のシラバスの概要

回	テーマ	主な内容
第1回	オリエンテーション	
第2回	生徒指導とは	生徒指導の意義とねらい、自己指導能力の育成
第3回	生徒指導の法制と組織	生徒指導の法制、生徒指導組織、生徒指導主事
第4回	学級経営	学級担任の役割、学級集団づくり
第5回	学校安全・危機管理	学校安全の確保、危機管理、危機対応
第6回	生徒理解と生徒・教師の関係	発達段階と生徒理解の方法、生徒と教師の関係
第7回	教育相談	教育相談の役割と方法、関係機関との連携
第8回	不登校	不登校の原因と予防、不登校生徒へのアプローチ
第9回	いじめ	いじめ防止法、いじめ問題の背景と対応
第10回	非行と心の健康	非行の歴史と態様、関係機関の役割、心の健康
第11回	SNS上のトラブルについて	SNS等による問題行動事象、情報モラル教育
第12回	人権教育と特別支援教育	世界人権宣言、子どもの権利条約、合理的配慮
第13回	キャリア教育と進路指導	キャリア教育の役割、進路指導の組織と体制
第14回	キャリア・カウンセリング	キャリア・カウンセリングの考え方と実践
第15回	まとめ	講義全体の要点整理、振り返り

筆者が担当した2023年度前期の「教職入門」は合計77名（内1年66名、2年11名）が受講登録し、また、「生徒・進路指導論」は合計69名（内2年59名、3年10名）が受講登録した。ちなみに、筆者の「生徒・進路指導論」の受講生の内13名（受講生全体の19%）は、以前に筆者の「教職入門」を受講した学生である。なお、受講生が所属する学部は、「教職入門」「生徒・進路指導論」とともに東大阪キャンパスで教職課程を設置する9学部にわたっていた。

調査は、「教職入門」および「生徒・進路指導論」の最終授業の第15回授業で行い、有効回答数は「教職入門」で合計68名（内1年58名、2年10名）、「生徒・進路指導論」で合計65名（内2年56名、3年9名）であった。

(2) 調査項目

調査は質問紙調査とし、次の「3. 調査の結果」に示す(1)から(8)の8項目および授業の全体的な感想（自由記述）とした。この中で、(1) (2) (5) (7) および授業の全体的な感想（自由記述）は中瀬の研究における調査項目の中に同じ項目がある。調査項目は、「教職入門」「生徒・進路指導論」とともに同じ内容とした。ただし、(3)の授業理解度を尋ねる質問は、「教職入門」と

「生徒・進路指導論」では授業内容が異なるので、質問文をそれぞれの授業内容に即したものとした。

「教職入門」と「生徒・進路指導論」の授業で同じ内容の調査を行うことにより、教職課程の入門授業として位置づけられている「教職入門」と、「教職入門」修得後に教職課程の授業をいくつか履修した上で受講する「生徒・進路指導論」において、その結果を比較できるようにした。

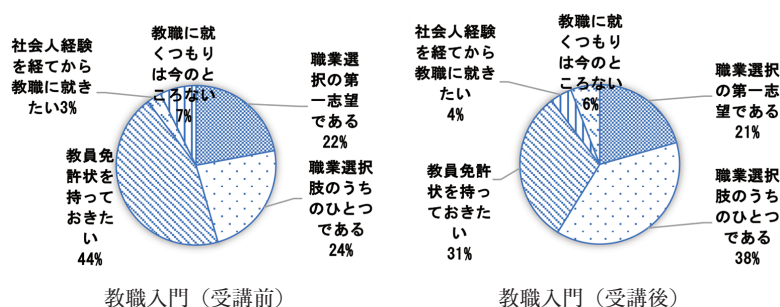
3. 調査の結果

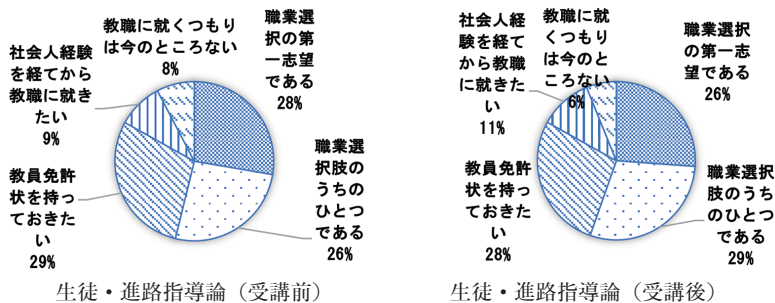
(1) 教職志望度

受講前と受講後の「教職志望度」を、「職業選択の第一志望である」、「職業選択肢のうちのひとつである」、「教員免許状を持っておきたい」、「社会人経験を経てから教職に就きたい」、「教職に就くつもりは今のところない」の5件法で尋ねた。尋ねた結果を図1に示す。受講前と受講後と比較すると、「教職入門」においては、「職業選択肢のうちのひとつである」と答えた受講生が14ポイント増加し、「教員免許状を持っておきたい」と答えた受講生が13ポイント減少した。また、「生徒・進路指導論」においては、受講前と受講後で大きな変化が見られなかった。

筆者の「教職入門」を履修した学生と、筆者の「生徒・進路指導論」を履修した学生の受講後と比較すると、「職業選択の第一志望である」または「職業選択肢のうちのひとつである」と答えた受講生の割合が「教職入門」で59%、「生徒・進路指導論」で55%、「教員免許状を持っておきたい」と答えた受講生が「教職入門」で31%、「生徒・進路指導論」で28%と、ほぼ同じ分布となっている。

図1 受講前と受講後の教員志望度



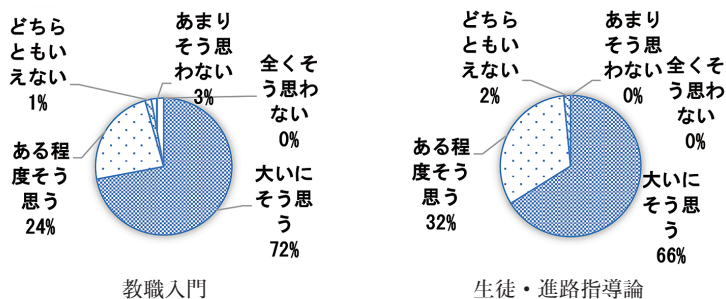


(2) 授業に対する有益感

以下の自由記述以外の質問では、「大いにそう思う」、「ある程度そう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の5件法で回答を求めた。

「授業を受けて有益だったか」と尋ねた結果を図2に示す。「教職入門」と「生徒・進路指導論」ではほぼ同じ分布で、「大いにそう思う」または「ある程度そう思う」とほぼすべての受講生が回答している。

図2 授業を受けて有益だったか

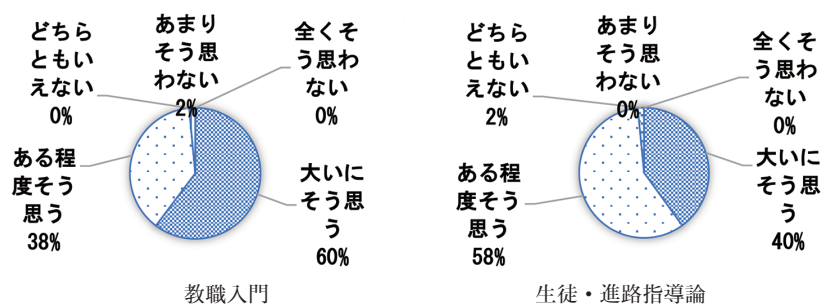


(3) 授業理解度

授業理解度を尋ねる質問として、「教職入門」では「教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解できたか」と尋ね、「生徒・進路指導論」では「生徒指導や進路指導について具体的に理解できたか」と尋ねた。この結果を図3に示す。

「教職入門」、「生徒・進路指導論」ともに、「大いにそう思う」または「ある程度そう思う」とほぼすべての受講生が回答しているが、「大いにそう思う」と回答した割合は、「教職入門」が60%、「生徒・進路指導論」が40%と、「教職入門」が多くなっている。

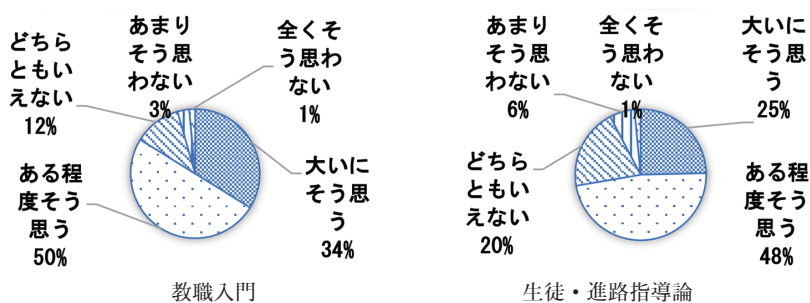
図3 授業内容の理解度



(4) 教職への意欲向上

「教職への意欲は高まったか」と尋ねた結果を図4に示す。「大いにそう思う」と回答した割合は「教職入門」34%、「生徒・進路指導論」25%と、「教職入門」が多くなっている。「ある程度そう思う」と回答した割合は、「教職入門」「生徒・進路指導論」でほぼ同じ割合になっている。

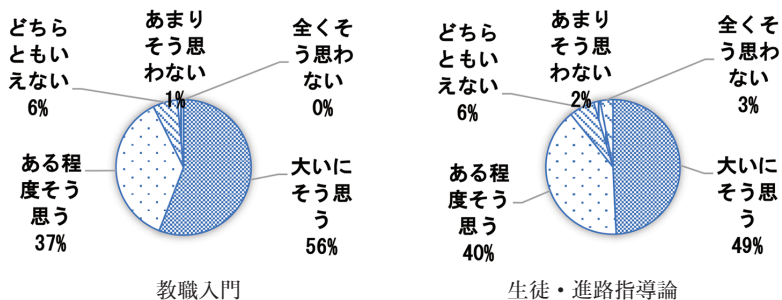
図4 教職への意欲が高まったか



(5) 進路選択を考える機会

「大学卒業後の進路選択に向け、考える機会になったか」と尋ねた結果を図5に示す。「教職入門」、「生徒・進路指導論」ともによく似た分布となっていて、「大いにそう思う」または「ある程度そう思う」と回答した割合は9割程度となっている。

図5 大学卒業後の進路選択に向け、考える機会になったか



(6) 教員になりたいが職業選択として選ばないと考えている理由

「教員になりたいが、職業選択として選ばないと考えている人は、その理由は何ですか」と尋ね、自由記述で回答を得た。自由記述の代表的な回答を表3に示す。自由記述は、「教職入門」で18件、「生徒・進路指導論」で34件あった。それらを「他にやりたい職業について」、「教員の労働環境について」、「教員の資質・能力についての不安」、「その他」の4つに大きく分類した。

表3 教員になりたいが職業選択として選ばないと考えている理由（自由記述）

<p><他にやりたい職業について> 回答は全6件</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他につきたい職業があるから。 • 元々他の職業につきたいと思う気持ちが強かったから。 • 他に自分が1番やりたいことがあるため。でも、教員としての考え方とかは一般企業で働いても役に立つと思うので教員免許はとっておく。 <p><教員の労働環境について> 回答は全8件</p> <ul style="list-style-type: none"> • 長時間労働。 • 日本の教育制度が世界に比べて質の高い教育とは思えないし、仕事量に比べて給料が合わないから。 • 教員には多くの制限と問題があり、ひとつの行動にも細心の注意を払わないといけない。それに自分が耐えられるかが心配だから。 • 労働環境が過酷だから。 <p><その他> 回答は全4件</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教員になるのは難しいと思っているから。 • 他の仕事を経験してから教員になりたいと思っているから。
--

<他にやりたい職業について> 回答は全13件

- 学部の授業でどうしても他業界の方が魅力的に見えてしまう。
- 教師以外の職業にも魅力を感じるから。
- 他の職業の方が自分の興味があるから。
- 他になりたい職業がある。
- 元々なりたい職業があり、教員が第1優先ではないから。

<教員の労働環境について> 回答は全9件

- 労働環境や時間に見合ったメリットがあまり考えられない。
- 定額働かせ放題なブラック環境である点。
- 教員はブラックであり、相当しんどい思いをしないとやっていけない。メンタルが弱いのですぐ体調を崩しそう。
- 自分の希望する生活スタイルと合わないから。

<教員の資質・能力についての不安> 回答は全7件

- 児童や生徒一人一人に対してしっかり向きあったり、それぞれの将来について責任を持つことが出来る自信が無いから。
- 本格的に教員という職業について学ぶことでよりその仕事の大変さや責任の重さを感じたのでやや自信をなくしてしまった。
- 教職課程ではやりがいと同時に教員という仕事の大変さも沢山学んだので、私に務まるのかそもそも教員になれるのかに対しての不安があるから。

<その他> 回答は全5件

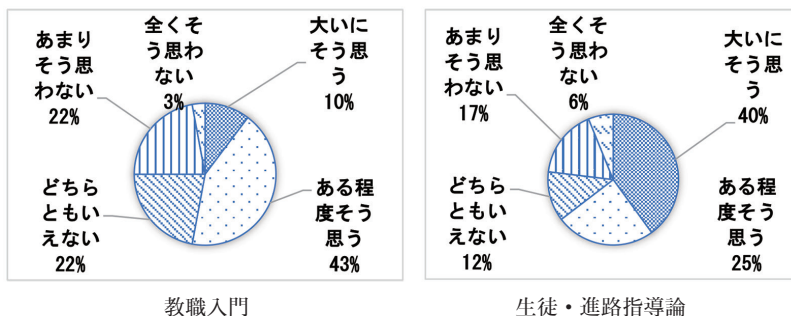
- 昔から教員を目指していたが、大学生になってもう一度本当に教員でいいのかを考え始めたから。
- 一度社会に出て経験を得てから、教員になろうと考えているから。

生徒・進路指導論

(7) 教職に対する不安

「教職に対する不安があるか」と尋ねた結果を図6に示す。「大いにそう思う」または「ある程度そう思う」または「どちらともいえない」を合わせると、「教職入門」75%、「生徒・進路指導論」77%とほぼ同じ割合になっている。そして、「大いにそう思う」または「ある程度そう思う」という不安を強く感じている割合は、「教職入門」「生徒・進路指導論」ともに半数を超え、「大いにそう思う」と回答した割合は、「教職入門」10%、「生徒・進路指導論」40%で、「生徒・進路指導論」でその割合がたいへん多くなっている。

図6 教職に対する不安があるか



さらに、不安について尋ねた自由記述の代表的な回答を表4に示す。自由記述は、「教職入門」で36件、「生徒・進路指導論」で40件あった。それらを「教員の資質・能力について」、「教員の労働環境について」、「教職課程の学修について」の3つに大きく分類した。

その割合は、「教職入門」では「教員の資質・能力について」50%、「教員の労働環境について」37.5%、「教職課程の学修について」12.5%であり、「生徒・進路指導論」では「教員の資質・能力について」47.2%、「教員の労働環境について」38.9%、「教職課程の学修について」14%であった。「教職入門」「生徒・進路指導論」ともにほぼ同じ比率となっていて、また、記述されている内容も大きな違いはないと思われる。

表4 教職に対する不安（自由記述）

<p><教員の資質・能力について> 回答は全17件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師として生徒の規範となれる資質が自分にあるかどうかわからない。 ・自分が理想とする教師像に自分になれるかが不安。生徒との信頼関係を築くことは難しいことだと思う。 ・保護者への対応や多様化している子どもたちそれぞれに寄り添う時にどう接すれば良いのか。 ・上手く生徒たちを指導できるかが不安。 ・50分しっかりと授業ができるかがとても不安です。 ・教育の現状が刻一刻と変化しているので、それについて行けるか不安になったから。 ・果たして自分に務まるのだろうかという不安。
<p><教員の労働環境について> 回答は全14件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と両立できるか。 ・テレビなどで言われているようにならかなりブラックであると個人的に思っています。 ・今日、教師は残業が多く残業代もそれに見合っていないというのと仕事量が多すぎるからです。 ・教師の残業や休日出勤が問題になっているのに長い間解決していないから。

- ・長時間労働などの問題点がまだまだあるから。
- ・教員の待遇や問題がどうなるのか。
- ・今後取っていく教科が自分で取れるくらいの難しさなのか不安。
- ・単位をとることが出来るのか。教育実習を乗り越えられるのか不安。

教職入門

<教員の資質・能力について> 回答は全20件

- ・うまく授業をできるのか、クラスをまとめられるのか。
- ・数学を教えるだけでなく生きる力を教えるなど塾ではないものだから。
- ・生徒や保護者との関わり方や、授業の進め方など。
- ・自分の指導力や性格が生徒たちに悪い影響を及ぼす可能性がある。
- ・教師になった時に、生徒にわかりやすく内容を伝えられるか不安があります。
- ・生徒へしっかりと教えることができるか、生徒や周りの先生との人間関係ができるか。
- ・生徒に何かを教える立場が自分に務まるのかどうかという不安があります。
- ・模擬授業がしっかりできるか、英語科のためスピーキング能力が身につけられるか。

<教員の労働環境について> 回答は全15件

- ・労働量に対して給与が適切に感じられるかも不安。
- ・ブラックな職場であること、教師との関係。
- ・ブラック環境によるメンタル衰弱。
- ・残業が多いイメージがある。
- ・長時間労働に適應できるのか不安がある。
- ・ブラックと言われている点に不安があります。しかし、やりがいはあると思います！

<教職課程の学修について> 回答は全5件

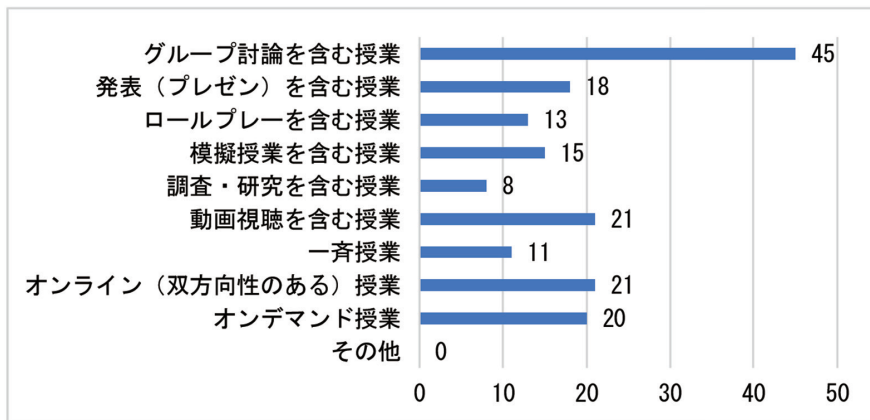
- ・学部の授業と両立できるか。
- ・就職活動との両立ができるかが不安。

生徒・進路指導論

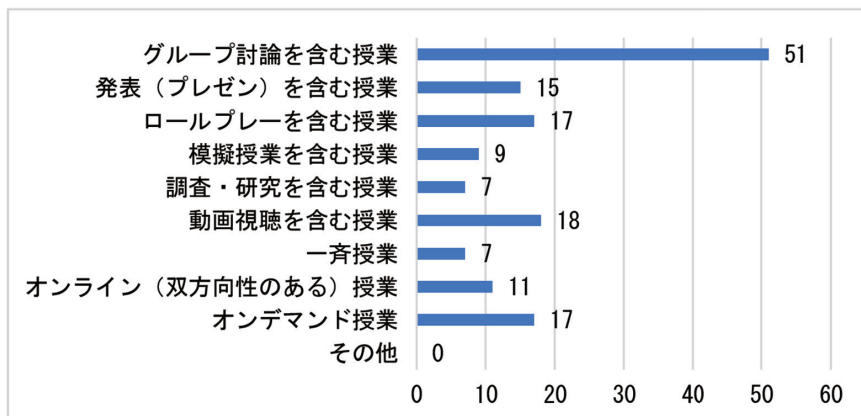
(8) 今後の教職課程の授業について希望する授業の方法や形態

今後の教職課程の授業について希望する授業の方法や形態を複数回答可能で尋ねた結果を図7に示す。「教職入門」「生徒・進路指導論」ともに同じような分布となっている。「教職入門」「生徒・進路指導論」ともにグループ討論を含む授業の希望が最も多く、次に動画視聴を含む授業の希望が多くなっている。

図7 今後の教職課程の授業について希望する授業の方法や形態（複数回答可）



教職入門



生徒・進路指導論

4. 考 察

(1) 教職への志望度を高めることと教職に対する不安について

「教職入門」では、受講前と受講後と比較すると、「職業選択肢のうちのひとつである」と答えた学生が増加し、「教員免許状を持っておきたい」と答えた学生が減少した。ちなみに、「教職志望度」が受講前は「教員免許状を持っておきたい」で、受講後は「職業選択肢のうちのひとつである」に変化した受講生が9名いる。この9名の受講生から得た授業の全体的な感想（自由記述）を表5に示す。これらの感想からも、教職の特質や課題、教師になったときなどのように授業や学級経営に取り組むかなど、生徒側ではなく教員側の視点で見ることによ

て、教職を職業選択肢のひとつとして考える学生が増加したものと考えられる。この生徒側から教員側への視点の変換は、「教職入門」のすべての担当者の授業において、共通する核の部分に含まれている。この点において、「教職入門」の授業は教職への理解を深め、教職への志望度を高めるのに重要な役割を果たしていると言える。

表5 授業の感想

- ・教員免許状は取っておこうというところから始まった教職入門だったが、教員の内状や生徒についてすぐわかりやすく理解することができた。職業の1種として考えようと思った。
- ・教師の理想像や教育現場の現状を知れたことが大きかった。自分が教師になったら、どういう授業やクラス運営をするべきかが少しずつ明確化できた。
- ・教職の問題点やよい点などを分かりやすく伝えていただき、教職に対してとても興味を引かれる授業をしていただきました。
- ・自身のキャリアビジョンを明確にしてくれるものだった。自分が教師になった時のことを考え、授業を受ける以前よりも教員という選択に可能性を感じるとともに楽しさや逆に不安を感じた。
- ・今までは教員について何もわかっていなかったが、この教職入門を通して、ある程度、知ることができ、将来についても考える機会となった。これからも教員への道は捨てずに、頑張りたい。
- ・生徒側では分からない先生側の心情や先生としての仕事はどういうものなのかということが分かるような授業でした。先生はどのような目的で生徒たちと向き合い、自立して社会へと送り出すためにも学校という施設はとても大事な場所であることを改めて実感でき、楽しかったです。
- ・今までよくわかっていなかった教員という職業を、生徒側でなく教員側の視点で、自分が受けた学校教育を思い出しながら学べた。
- ・グループワークをする機会が多く、グループメンバーと意見を交換しながら考えをまとめていくせが付きましました。とてもいい経験になったと思います。
- ・学校の問題や課題を初めて教師側としての考えが出来て教職課程の授業としてだけでなく、個人の考えとしても深まりました。

それに比べて、「生徒・進路指導論」においては、受講前と受講後で教職志望度に大きな変化が見られない。「教職入門」を受講し、その後、いくつかの教職課程の授業を受講している「生徒・進路指導論」の受講生は、教職志望度はほぼ固まっていると考えられる。

そして、「教職に対する不安があるか」と尋ねた結果である図6から、「教職入門」の受講生より「生徒・進路指導論」の受講生のほうが強く不安を感じていることがわかる。自由記述の主なものを示す表4からは、教職に対して不安に思っている内容は「教職入門」の受講生も「生徒・進路指導論」の受講生も大きな違いはない。つまり、不安の内容は概ね同じであるが、「教職入門」の受講生より「生徒・進路指導論」の受講生のほうがその不安を深刻に受け止めていることがわかる。「生徒・進路指導論」では様々な教育課題を扱うので、受講生は教職への理解が深まるとともに、教職に対する不安が深刻になってくると考えられる。

(2) 教職に対する不安を少なくする方策について

ここからは、学生が「生徒・進路指導論」の授業を受けることにより、教職への理解が深まるとともに、教職に対する不安が深刻になるという状況の中で、教職に対する不安を少なくするにはどうすればよいのかについて考えてみたい。

そこで、「生徒・進路指導論」の受講生に「教職に対する不安があるか」と尋ねた結果、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した23%の受講生の授業の全体的な感想（自由記述）から代表的な回答を表6に示す。「生徒・進路指導論」の受講生は、教職への理解が深まるとともに、教職に対する不安が深刻になる傾向があるが、その中で教職に対する不安について「全くそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した受講生の感想は、教職に対する不安を少なくする方策を考えるにあたって参考になると思われる。

表6 授業の感想

<グループワークについて>

- ・意見交換の時間が多く、多様な意見を取り入れることができ、振り返りの課題もあったことで、深く考える時間もあつたため、将来教員になった時のためになると感じた。
- ・毎回グループワークがあつたので、同じく教員を志望している学生と意見交換ができたことは、今後の教員としてのキャリアの中で生きていくモノになるのではないかと感じた。
- ・毎回席替えがあつて新しい人とコミュニケーションを取ることができるので新しく会う人に対しての壁があまり感じなくなったので良かったとおもいます。また、学校の先生は裏で色々なことをしていて思ったより忙しく大変なんだなと思いました。
- ・1年生の頃にやった教職入門の内容をさらに深く学んでいくという印象の授業であつた。グループワークが多かつたのが良い点だと感じた。
- ・ただ話を聞いているだけでなく、グループワークが毎回ある授業であつたので、自分の考えていることをまとめたり言語化したりする練習にもなりましたし、多様な意見を聞いて考える良い機会にもなりました。
- ・グループでの活動が他の教職の授業よりも比較的多く、他の人の異なる意見や考え方を共有することができてよかつたと感じています。
- ・グループ活動も毎回あり、答えが一つだけでない問題や学生時代の経験談などはこれまで自分やその周りのこと以外で知ることができたので良かったと思います。
- ・授業を通して教員になるための知識の幅を広めることができたと思います。知識だけでなくグループワークを通して言語化するための練習にもなりました。

<チーム学校について>

- ・チーム学校について、担任が一人で抱え込まず、先輩の先生や学年主任、教頭、校長に報告して、全体で解決することの大切さを特によく学べました。生徒側から見ると、学級のことは担任が対処しているように見えるが、実は学校全体ということを知っているのと知らないのとでは大きく違つたと実感しました。

<授業内容について>

- 他の教職の授業とも互換性があり、聞いていてとてもおもしろかったです。教員として授業以外にやるべきことへの理解が深まりました。
- 「教職入門」の内容と関連している部分もあり、重要な内容の授業なんだと実感させられた。
- 範囲が広いところまであったので教職についての幅広い知識が身についたと感じた。これからの土台となるものになった。他にグループワークが多かったので他の人の視点などを多角的に見ることができるようになっていくところがよいと思った。
- 「生徒指導とは何か」という大枠から始まり、現在の教育現場に必要な知識や技能の細かいところまで学ぶことができたと思う。
- この授業は、教職を希望する自分としては教員になったときの生徒との関わり、先生の立ち位置等、幅広い知識を学ぶことができる機会でした。生徒たちの個性を理解し、生徒にとってより良い進路指導を行うようにしようと強く思うことができました。
- この授業を通して私は、以前までは曖昧であった教員としてのビジョンをかなり明確にすることができたと同時に、教員として生徒にどのように接していくべきであるかについてもとても深く学べたのでとても良かったです。
- 生徒・進路指導の内容は、他の教職の内容とも関わることが多かったため、広く深く学びを深めることができたのではないかと感じました。グループワークを通じて様々な意見を聞くことができ、自分の中の視点が広がりました。

① グループワークによる様々な教育課題などについて討論

今後の教職課程の授業について希望する授業の方法や形態を複数回答可能で尋ねた結果である図7から、「教職入門」「生徒・進路指導論」とともにグループ討論を含む授業の希望が最も多いことがわかる。グループ討論を含む授業の希望が最も多いことについては、「教職入門」「生徒・進路指導論」とともに、授業の中でグループワークを積極的に行うようにしたことも影響していると思われる。両授業ともに授業中のグループワークでは、ほぼすべての受講生が意欲的に参加し、授業後に収集した授業の感想でも大多数の受講生がグループワークは有意義であったと回答している。

授業では毎回席替えをして、新たなグループメンバーとグループワークを行った。授業の最初に自己紹介タイムを作り、お互いのことを知ったうえで授業中に数回グループワークを行った。様々な教育課題について、受講生の中・高時代などの振り返りや、教員になったときにその課題にどう取り組むかなどを話し合ってもらった。表6からもわかるようにグループワークは多様な意見を聞いて考える良い機会になるとともに、グループワークで話し合った「あなたは〇〇について教員としてどのように取り組むか」という内容の振り返り課題を課したので、受講生が課題を自分事として考え、文章にまとめる機会にもなった(この振り返り課題は、受講生全員の書いた内容をまとめて、全員へ配信した)。

学校現場の教員も様々な不安を抱えつつ、教員同士で直面する教育課題について話し合い、

対応策を考えることによって不安を乗り越えている。協働性と同僚性に根ざした教員集団としての組織的な取り組みで不安を乗り越え、そしてその経験が教員としての自信につながっていくと思われる。

そのように考えると、「生徒・進路指導論」の授業においても、グループワークを通して様々な教育課題などについて討論し、課題解決に向けての取り組みを考えるという学校現場の教員と同じ経験をすることが、教職に対する不安を少なくするひとつの方策になるのではないだろうか。

② 「チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性」を伝える

筆者が「教職入門」「生徒・進路指導論」の授業で常に言い続けていることがある。それは、教職課程コアカリキュラムの「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」にある「チーム学校運営への対応」である。つまり、その到達目標に示されている「校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性」である。表6にある「チーム学校について、担任が一人で抱え込まず、先輩の先生や学年主任、教頭、校長に報告して、全体で解決することの大切さを特によく学べました。生徒側から見ると、学級のことは担任が対処しているように見えるが、実は学校全体ということを知っていると知らないのとでは大きく違うと実感しました。」という感想は、不安を一人で抱え込まず、組織として課題に対応することの大切さを表している。このような考え方を学生に定着させることも、不安を少なくすることにつながるのではないかと考えている。

③ 学校現場の実践に近い内容を扱うとともに教職課程の授業間の関連性を明確にする

表6の授業内容についての記述から、より学校現場の実践に近い内容を授業に盛り込むことが不安を少なくすることにつながると思われる。学校現場の実践に近いという点では、学校現場の状況を映像として示している動画視聴を含む授業や、実践に近い内容を体験するロールプレーを含む授業を多くの学生が希望していることもその表れかもしれない。

そして、教職課程のいくつかの授業で重複して取り扱われる内容があることや、いくつかの授業で扱われる内容の関連性が示されることは、教員になるにあたって重要なことを学び、深められているという学生の実感につながっているのではないかと考えられる。「生徒・進路指

導論」の授業において、教職課程の他の授業との関連性を示すことによって、教育課題についての様々なアプローチ方法などを学び、教職の全体像がより明確に学生に伝わり、そのことが学校現場の教員としてやっていけるという学生の自信にもつながるのではないだろうか。

5. おわりに

教職課程の入門科目である「教職入門」で教職への志望度が増加し、その後に履修する「生徒・進路指導論」では教職への理解は深まるが、教職に対する不安が深刻になるということが、質問紙調査によって見えてきた。また、その不安を少なくするための「生徒・進路指導論」の授業の在り方についても考えてみた。今回の考察をもとに、筆者が担当する授業において、学生が教職への希望を強くするとともに、教職への不安が少なくなるよう改善を図ってきたい。

さらに、近畿大学では、総合大学ならではの特色を生かし、全学的な協力体制のもと教員養成に取り組んでいる。また、教員採用試験に向けてのサポート体制も充実している。学生が教職への志望を強くするとともに、教職への不安が少なくなるよう、筆者の授業とこれらの取組みをどのように有機的に連携させるかについても、今後の課題として考えていきたい。

参考・引用文献

- 中瀬浩一(2015)「『教職概論』の授業理解と教職に対する意識の検討」(同志社大学教職課程年報)
- 教職課程コアカリキュラム(2021)(教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会)
- 教職課程履修要項2023(2023)(近畿大学 教職教育部)